


 塩治
地区

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩治地区社会福祉協議会 事務所 塩治コミュニティセンター内 TEL 21-0248
 塩治社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

～ 塩治地区高齢者福祉大会 ～

令和元年9月16日(月)、塩治コミュニティセンターにおいて、今年も例年どおり「塩治地区高齢者福祉大会」を盛大に開催しました。

大会には塩治地区で90歳の卒寿を迎えられた4名の方に出席いただき、「特別養護老人ホーム天神」「きいちご倶楽部」「寿生の郷」「ことぶき福祉会」の各施設のみなさん37名、来賓には塩治自治協会の板倉啓治会長ほか6名、そして大会に花を添えてくれたえんや保育園の園児たちとその家族、地区社協理事や福祉委員を加えて総勢約250名により、賑やかに行われました。

開会のことばの後、全員で「塩治賛歌」の斉唱や塩治地区社会福祉協議会中尾会長の挨拶があり、続いて自治協会の板倉啓治会長よりお祝いのお言葉と共に自治協会の役割として、地域活動の重要性や住民福祉の増進に今後も寄与するよう活動を行って行くこと等についてお話いただきました。その後、社協の中尾会長より卒寿を迎え出席いただいた4名の方に長寿のお祝いが手渡されました。

式典が終わり、後半はアトラクションです。最初はえんや保育園の園児たちの可愛らしい歌とおゆうぎでした。それだけでも客席の皆さん笑顔でしたが、最後に子どもたち全員が舞台から降りて、恥ずかしそうに客席の間に入り、高齢者の方たちと対面し「幸せなら手をたたこう」を歌います。最初は恥ずかしそうにしていた園児たちも二番三番となるとすっかり笑顔がもどり、高齢者の方と手や肩をたたきあって、おじいさんおばあさんを喜ばせてくれました。高齢者の方と園児たちの満面の笑顔に来賓席も社協の理事もみんなが♡えがお♡になった瞬間でした。

次は「あげそげ塩治福祉座」の演劇で「大雨警報! あなたならどうする」。災害の多い時期だけに避難を巡って考えさせられました。そして最後はみんなで唄を合唱して終わりました。今年もたくさんの笑顔に出会えたことに「感謝」します。(広報広聴部)



卒寿 おめでとうございます!

子供たちと一緒に!



寿生グループとの福祉座談会

7月26日(金)、寿生病院 6F 大会議室において、寿生グループと塩冶社協との意見交換会を行ないました。



寿生グループは昭和59年に寿生病院を立ち上げられてから今年で35年になり、現在では医療法人寿生会と社会福祉法人出雲南福祉会の二つの法人により、医療や介護、子育てまでを総合的に支援する事業が行なわれています。

また寿生グループの前会長は塩冶社協の初代会長でもあり、当時に築かれた礎が今日の塩冶社協の活動につながっているとも言えるものです。

そういった中、双方が地域交流を含めて社会福祉活動を広く行なっていることから、塩冶社協と協働する事業が行えないかと改めて意見交換会を行なったものです。

意見交換会では双方の事業活動を紹介し合い、理解を得ながら、今後も連携し協働した活動を行なうことで意見が一致しました。寿生グループの協力は今後の社協活動の一助となるものと言えます。(取材：広報広聴部)

理事・福祉委員研修会の開催

8月17日(土)、塩冶コミセンにおいて、理事19名福祉委員5名の参加により、出雲市社会福祉協議会の春日様、山本様、大迫様の3名にお越しいただき、「たすけあい・支え合いの輪を広げよう！」をテーマに地域支え合い研修会を行ないました。

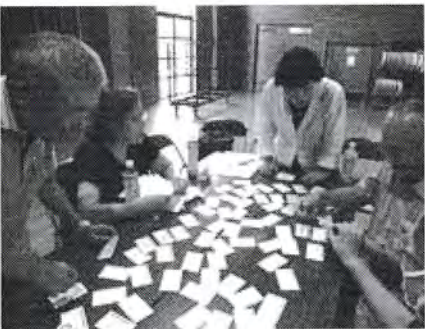
春日様からは「福祉は普段の暮らし」と考えており、求められる生活の場に①自宅、②子どもの家、③高齢者向けケア付き住宅、④特別養護老人ホームのうちのどれを望むかです。健康な時は皆さん自宅が多いようですが、病気や介護が必要になると施設を希望される方が多くなるようです。但し施設に入るには介護認定の制限や出雲市でも月に平均13～14万円の費用がかかるとのこと。

在宅生活＝日常生活動作＋環境 です。

在宅生活を続けるためには、自助(自分・家族)＋互助(地域の助け合い)＋共助＝在宅生活(介護保険)です。

それぞれを生かした人とのつながりが一番大切とのことをお話をいただきました。

その後は他地域の活動等のお話を聞き、最後にグループに分かれ、1ゴミ出し～60食事の配達まで様々な生活に必要なカードを使い、助け合い体験ゲームを行ないました。



(取材：広報広聴部)

日本文化体験の集い

9月20日(金)、青少年育成部では、塩冶小学校に通う外国にルーツのある子どもたちに「日本の遊び体験」として、昔からある日本の遊びを塩冶コミュニティセンターで体験してもらいました。

今年はこれまで行なった遊びに「万華鏡」作りを初めて取り入れてみました。始めに当日の参加スタッフ全員が持ち寄った1000mlの空き牛乳パックを担当者の指導により、7～8割程度まで加工組立てを行い、その後の完成までの作業を子どもたちが行ないます。



子どもたちは最終工程のビーズ選び、外装の貼り付け等、四苦八苦しながら、言葉の壁を乗り越えて、担当者の協力を得ながら万華鏡を仕上げることができました。

万華鏡の覗き穴から覗いて見て、思わず満足(?)の笑顔です。完成品は皆さんに持ち帰ってもらいました。

その他の遊び・・・、ゴム鉄砲で的を倒して面白がっている子、新聞紙で作ったかぶとをかぶって紙ヒコーキを飛ばす子、ゴム段とびでは2～3人いっしょに飛んでいる子、竹とんぼ、けん玉、輪投げに興じている子・・・。遊びに国境はないなあ～と考えさせられた一日でした。



今回も塩冶百寿会、NPO 法人エスペランサの皆様のご協力を得て、日本の遊び体験を楽しく終えることが出来ました。紙面を借りて、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(青少年育成部 高塚勝昭)

三原 サロン会

お出かけサロン会！ 村田製作所へ

6月24日（月）、今年度第1回目のサロン会は、少し趣向を変えて斐川の「出雲村田製作所」の見学を行いました。身近にあり、町内でも勤務されている方がおられるのに、どのような工場なのか全く分からないということで、理事・福祉委員を含め23名が参加しました。



工場到着後、まずはパワーポイントと資料を使って、村田製作所の概要説明をしていただきました。

出雲工場は世界最大級の積層セラミックコンデンサの開発・生産拠点で、世界シェアの約40%を生産しているそうです。

積層セラミックコンデンサと聞いてもピンとこないのですが、実は私達の生活に欠かせない電気製品に多数使われており、身近なところでは、スマートフォンやパソコン、自動車等、一般家庭では一軒あたり5,000～6,000個ものセラミックコンデンサが使われているそうです。驚いたのはその大きさです。一番小さいものでは0.2mm。人の手ではとても扱えません。したがって、24時間体制で機械（ロボット）を使って生産されているということでした。

説明の後、3グループに分かれて実際に工場内を見学しました。大規模な工場内はとてもきれいで、大きな機械がずらりと並び、部署によっては人がとても少ない所があり、驚きました。

この研修を通して、従業員のみなさんが実際にどのように働いておられるのかが分かり、改めて見学してよかったと感じました。

工場見学の後には玉造温泉の松の湯において、参加者のみなさんと和やかに昼食をいただきました。

温泉に入ったり、売店でお土産を買ったりと、久しぶりのお出かけサロン会で楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。



（理事 加茂喜美江）

大正海上 B型サロン会

B型サロン会に参加して

8月19日（月）、大正海上では平成21年頃から自主的に活動を行い、今も続いているB型サロン会があります。

年に一度は出雲市社会福祉協議会地域福祉課の大迫慎二郎氏と島根大学の研修生2名が来られると云うので取材に行ってきました。

サロンは大正海上の女性8名のグループです。毎月第1、第2、第3月曜日に“ドレミホール”を会場に午前9時30分頃よりテープに合わせて足の先から頭のテッペンまで無理のない軽い運動やスキンシップで身体をほぐし、後の40分くらいはおしゃべりティータイム！ということです。



概ね11時頃には解散とのことでしたが、今日は孫のような研修生や大迫さんとの話も弾み、私が失礼したのは12時前でした。

行く前は気が重く、取材を引き受けなければ良かったと後悔しましたが、皆さんとても仲が良くおしゃべり上手で、最高齢89歳の方もとても元気で気負ったところのない“すてきなグループ”でした。

わずか3時間ほどのお付き合いでしたが、これが本来あるべきサロン会の原点だと思いました。こういう少人数で出来る自発的グループが沢山出来れば良い・・・と願った一日でした。



（広報広聴部）

ご寄贈御礼

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。

(7月1日から9月30日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額
------	-----	-----	------

※ 掲載欄の ー は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

今年もご多分に漏れず 50 年に一度の大雨や強風とすべ
てが最強クラス。相次ぐ“想定外”、高まる台風リスクに追
いつかない有様・・・。残暑が続く中での長期間の停電に想
像を絶する過酷さ、また一方では自分が生んだ愛しい幼子
を虐待死亡させる親・・・と、暗いニュースばかりの昨今で
す。そんな中で先日何気なく新聞を捲っていると「90 代夫
の介護の心構えは」と言う“人生案内”が目につきました。
投稿した妻も 90 歳が近い。何気なく読んで微笑ましく“共
に白毛の生えるまで”と言う言葉を思い出しました。

90歳を超えた夫が数ヶ月前に転倒し寝たきりになり、介護施設に入って3ヶ月になるけど、どうしても家に連れて帰って自分で介護したい。夫は初恋の人で60年間愛することが出来て幸せでした・・・とおのろ気まじりの相談でしたが、こんな夫婦の様な気持ちで小さな灯を持ち続けたいものです。

(理事 大賀幸恵)

この「地区社協便り」は、出雲市社会福祉協議会からの助成金を財源の一部として発行しております。

◆◆愛友会だより◆◆

9月14日(土)、汗ばむような天気の中、まずは知井宮のあぐ梨梨園に愛友会3名、社協理事2名で梨狩りに出かけました。

今年はゴールド
 二十世紀という種
 類で、天候の加減で
 生育が少し遅れて
 いたため、みなさん
 少しでも大きな梨
 を収穫しようと一
 生懸命でした。



その後はコミセンの調理室において、「えがおの会」の講師のみなさんの指導のもと、もぎたての梨を使ってデザート作りをしました。



今年は百寿会の
 方々との交流を図ろうと、3 名の方に協力していただき、
 愛友会 8 名、社協理事 4 名、福祉委員 1 名、計 16 名の
 参加となりました。

デザート作りは初めてという方も多く、出来上がりを楽しみに、各自が出来ることを分担し、みんなで協力して、わいわいおしゃべりしながら、アメリカンクッキー、蒸しパン、梨ジャム、梨ゼリーの4品を作りました。

そして待ちに待った試食の時間です！

こんがりきつね
色に焼けた蒸しパンはふわふわでとても美味しく、アメリカンクッキーはしっとりした新食感！



梨ジャムは食パンにはさんで食べました。みんな「梨は皮をむいて食べることしか思いつかなかったけど、こんなに美味しいデザートになるなんて!!」と驚いておられました。



百寿会さんも交
えて、とても楽しい

時間を過ごすことができました。

(障がい者福祉部 加茂喜美江)